

## 農林漁業現地事例情報「食料自給率向上に資する取組事例」

食料自給率向上に向けて重点的に取り組むべき事項等に基づいた取組の分類：

ア 分かりやすく実践的な「食育」と「地産地消」の取組

**取組名：** 「ななえで遊ぼう!農業体験会」を通じて都市住民との交流を推進  
**取組主体：** アグリネットななえ（会長：宮田宏之 事務局：七飯町農政水産係）  
（北海道・七飯町）  
**取組紹介：** 平成13年、七飯町でグリーン・ツーリズムを展開している農業者が相互の連携と都市住民とのふれあいの推進を目指し「アグリネットななえ」を設立し、17年から「ななえで遊ぼう!農業体験会」の取り組みをスタートした。

公表の可否	可	個人情報掲載の可否	可	外部からの問い合わせの可否	可
-------	---	-----------	---	---------------	---

### 1 取組の背景

当時、七飯町内でグリーン・ツーリズムを展開していた5名の農業者は、それまで個々での活動が多く、お互いの情報交換の機会が少なかったが、「消費者がふれあいファームを回るスタンプラリー（渡島支庁主催）」に参加したのをきっかけに、農業者同士の連携や都市住民とのふれあいの推進を目指し、平成13年7月「アグリネットななえ（事務局：七飯町農政水産係）」を設立。17年から「ななえで遊ぼう!農業体験会」の取り組みを開始した。

### 2 取組の具体的内容

「ななえで遊ぼう!農業体験会」は農業体験や農業者との対話を通じて七飯町の基幹産業である農業や農産物を身近に感じてもらい、理解を深めてもらうことが目的。同町のホームページや新聞などを通じて参加者を募集し、毎年、隣接する函館市を中心に多数の応募が寄せられてきた。

5年目となる今年は68名が5月から10月の期間（計7回）にりんごの花摘み体験、アイガモ農法の見学、かぼちゃの収穫など農作業や収穫作業を体験する。また、参加者の関心が高かった農業機械の実演見学も今年から新たに取り入れた。これらの作業に当たっては、会員農家（現在13戸）が講師となり参加者への説明及び指導にあっている。

### 3 取組の具体的効果

バスをチャーターし畑まで送迎した初年度（17年）は特別として、移動手段を自らが確保するという現在の方式に変更した18年以降、参加者が毎年確実に増加してきている。中には2年以上続けて応募する参加者が半数近く占めることから、その活動

内容が参加者から評価されていることを示している。

また、これまでの参加者が会員農家の直売所を定期的に訪れることもあり、農家の売り上げ増につながっている。

年度	平. 17	18	19	20	21
参加者数	72名	35	44	56	68

#### 4 今後の展開方向

農業体験会の参加者をさらに 100名程度まで増やし、より多くの方に農業・農村への理解をを深めてもらう。

アグリネットななえの会員農家が生産する農畜産物はコメ・いも・野菜・くだもの・乳製品など多岐にわたり、年間を通じて特色ある品揃えが可能であることから、これらをインターネットを活用し販売して行くことを検討している。

#### 5 取組に係る問題点と解決策

初年度は、参加者が集合場所から農業体験を行う畑までの移動は同町のバスを利用していたが、18年からは使用できなくなった。そのため、移動手段を各自で確保できることを応募条件に加え募集することとした。

参加者が一時的に減少したものの、その後、参加者は毎年増加している。

#### 画像



【情報収集官署】 北海道農政事務所 函館統計・情報センター

連絡先：0138-26-4611

<本事例の収集時期：平成21年6月>